

人にやさしい街づくり部会

白川 長廣

『道路は今』

今、折尾郵便局から楠ノ木にかけての歩道の工事が行なわれている。舗装が痛んだから舗装のやり直し？工事を示す看板には、歩道のバリアフリー化工事」となっています。

どこがどう変わるのか「？」の方も多いと思います。まず、歩道の幅が広がったこと。すれ違うのも難しかった箇所がありました。幅が広がり、容易にすれ違えるような幅が取られています。

二つ目に歩道の傾斜が小さくなったこと。車道から車庫へ入るため車道面からかなりの傾斜がありました。幅が広くなったことと歩道が車道と同じ高さになったことで傾斜が少なく

なりました。

進行方向の右左の高さが違うと歩き難いことは皆様も経験のあることだと思えますが、車椅子だと低い方に流されてしまい進みにくい。え、凸凹していると車輪のコントロールが利かず車道に流されてしまうことがあります。そういう歩き難さが解消されます。

ところで、交差点部分の歩道の端っこ、少し段差が付いています。ベビーカー、シルバーカー、車椅子等にとって、何でこれだけの段差を残すの？という疑問があると思えます。

歩道は目の不自由な方たちも通ります。視覚に障害のある方たちは歩道部分から車道部分へ出たことを判断するものが欲しいのです。それを判断するのがこの段差なのです。

かつて、車椅子利用者はスミーズに移動できるよう段差をなくして欲しいと望みました。

視覚に障害のある方たちは歩道と車道の区別が付かないと不意に車道へ出てしまい、危険であると訴えました。

そこでお互いに話し合い、実験・試行を繰り返して、検討して車椅子利用者がこの高さなら行ける、視覚に障害のある方がこの高さなら判断できる、と決まった段差が2.5センチでした。

そのために2.5センチの段差がついています。



車椅子バスケットボール

© こすげ のりかず

それから、日本は先進諸国の中で、最も早いスピードで超高齢社会への道を進んでいます。

年を重ねて足が弱っても、身体が不自由でも、

自分で買い物や食事にも行ける、そんな街を創りたい！
開発で変わる折尾の街を、温かく、やさしい街にしたい！

そんな想いで活動しているのが「人にやさしい街づくり部会」であり、前身は折尾駅の「エレベーター設置の署名活動」をした会です。

折尾駅周辺の開発は、普通はなかなか変えることのできない施設や道路を全体的に整備できません。

また、折尾の特性である多くの高校や大学の専門性や若さも活かして、子どもから高齢者まで、日本一、暮らしやすい街をつくれるチャンスです。

「おりお未来21協議会」で、折尾地区が目指すまちの方向性は「人が主役、やさしいっぱいのまち」です。

まず「人」がどのような暮らし方をしたいかを優先に考え、縦割りの行政や団体が、横の連携（ネットワーク）をとりながら、人にやさしい街づくりをしていこう!!ということなのです。

それには、特定の人達が特別なことをするのではなく、すべての人が、それぞれの果たす役割を認識し、自分は何ができるのかと問いかけ、行動することが大切です。

今、折尾の街は変わるうとしています。

学園&地域交流ネットワークの中でも意見を出し合い、安心して、ちょっと出かけてみようかと思える、歩いて楽しい街ができればと思います。

人が主役、やさしいっぱいのまち

年を重ねて足が弱っても、体が不自由でも、だれでも、
自分で買物もしたいし、食事にも行きたい!

それが実現できる『ユニバーサルデザイン』をみんなでつくりましょう!



年齢・性別・国籍・障がいにかかわらず
だれでも安心して、いつでも、どこへでも
自分の意思で・自分のペースで出かけられるまち



「歩いて楽しいまち」に、みんなで出かけよう

安心

トイレの心配なく
出かけられます

移動

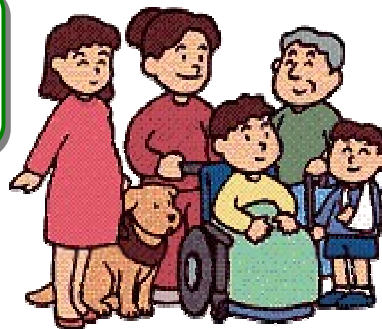
安全に、自由に
移動できます

ふれあい

楽しいおしゃべりで
笑顔がふえます

やさしさ

買物・食事などの
お手伝いもあります



つながり

情報交換や交流で
社会参加がふえます

思いやり

お買い物などの
配達もあります

- ♥ 外出困難な方の外出が可能になり、社会参加が増え、健康増進になります。
- ♥ 自立した生活ができることで、介助負担・介護費・医療費の軽減になります。
- ♥ 昼間・来訪・居住人口が増加し、商店街や街全体の活性化になります。